

## ●漁況情報

- 2月に入り、三浦半島から横浜にかけての各浜では養殖ワカメの収穫が始まっています。各浜でワカメの天日干し風景が見られ、生干しワカメや湯がき干しワカメの他、塩蔵ワカメ等加工されています。今シーズンは水温が高めのためか、収穫量が例年より少ないところが多いようですが、「かながわの名産100選」にも選定された旬の「三浦半島・横浜のわかめ」を、この機会に是非ご賞味ください。
- 2月に入り、葉山の真名瀬地区では、水深10m前後の刺網漁場でアンコウ（キアンコウ）が漁獲されています。1回の操業で5kg前後のアンコウが1～5尾漁獲され、時には10kg前後の大きなものも掛かるそうで、刺網漁業者は「こんな浅い場所でアンコウが獲れるのは珍しい」と話していました。

## ●浜の話題

- 2月2日、茅ヶ崎市漁協は茅ヶ崎漁港で「生わかめまつり」を開催しました。今年は、地先で収穫された生の「えぼしわかめ」のほか、ワカメと茅ヶ崎産のプリをセットにした「しゃぶしゃぶセット」も販売しました。参加者にえぼしわかめのお味噌汁も振舞われ、大盛況でした。



えぼしわかめとプリのしゃぶしゃぶセット



「生わかめまつり」の様子

- 2月4日から9日にかけて、神奈川県定置漁業研究会は、小田原漁港周辺の施設で定置漁業者を対象とした「玉掛・小型移動式クレーン講習」を開催しました。（一社）日本クレーン協会神奈川支部から派遣された講師により講習が行われ、玉掛講習（16名参加）や小型移動式クレーン講習（19名参加）を受講した参加者全員が技能証を取得しました。定置漁場では新規就業者も多く、安全講習の必要性が高いことから、同研究会では今後も要望に応じて対応していくとのことです。



学科講習の様子



小型クレーンの実技講習の様子

- 2月5日、県水産課は、神奈川県立海洋科学高校2学年の生徒33名を対象に「漁業就業セミナー」を開催しました。はじめに長井町漁協所属の宮川さん（房竹丸）から、脱サラして定置網従業員に転職

し、さらに個人経営の漁業者となり、所得向上のため加工直売まで手掛けてきた体験について説明がありました。つづいて小坪漁協所属の大竹指導漁業士（大竹丸）から、これまでの獲って売るだけの漁業の厳しさや、漁業とあわせて飲食店等の多角的経営を行っている同漁協組合員の事例について説明がありました。説明終了後、漁業への就業を希望するか担当教諭が尋ねたところ、複数の生徒が手を挙げました。



神奈川県立海洋高校で実施した漁業セミナーの様子

- 2月13日、三和漁協上宮田支所は、浜の活力再生プランに基づき平成28年度にナマコ資源増大のため設置した投石場の確認を行いました。水中カメラで設置場所を観察したところ、投入した石にはカジメ等の海藻類が繁茂しており、周囲に小型の魚も確認できました。漁協では今後も引き続き、投石場のモニタリングを行っていく予定です。
- 2月中旬、みうら漁協諸磯支所所属の漁業者が白いナマコを漁獲しました。伸びると30cmもある大きなナマコで、種類はおそらくマナマコと思われます。このような体色のマナマコは大変珍しいため、油壺マリンパークに寄贈され展示されるとのことです。



漁獲された白いマナマコ